

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立桜岡小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	「授業がわかる」と回答した児童が90%を超え、「桜岡スタイル」での授業実践を達成できた教職員が85%を超えていた。引き続き、自己有用感を高める教育の推進に努めていく。児童アンケートの「自分にはよいところがある」と回答した児童も82%となり目標値を達成することができた。今後は、他者への思いやりや社会性を育てるための取組を実施していく。あらゆる教育活動において教職員が支え合いながら教育実践に取り組むことができた。今後も本校の教職員集団としての良さや教職員一人一人の強みを生かしながら、課題解決に向けて取組を進めていく。
------------------	---

2 学校教育目標	やさしく、かしこく、たくましく 笑顔の花咲く 桜っ子の育成 ～すべては子ども達の自信のために～
----------	--

3 本年度の重点目標	一人一人の教職員が、学校教育目標の実現に向けての意識を高く持ち、児童の「自己有用感」を高める取組を推進する。 《教育活動推進のための3つの重点》①子どもが自ら学びたい授業作り、生徒指導の充実②子どもの困り感に寄り添う支援、心と体を育てる教育活動の充実③教職員の協働意識・体制の向上(認め合い・支え合う職員集団)
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
●学力の向上	○校内研を軸とした主体的・対話的で深い学び	○「桜岡スタイル」での授業において、学習形態・道具・場所を児童に提示し、授業改善に努めた」と回答した教職員が90%以上一学校評価教職員アンケート ○「友達と話し合いながら課題について考えることができる。」と回答した児童が80%以上一学校評価児童アンケート	・すべての授業で、「めあて」「見通し」「考えよう」「まとめ」「振り返り」を意識して、ICTを活用しながら「桜岡スタイル」での授業実践に取り組む。 ・「協働学習」について研修を行うことで、友達と話し合いながら問題解決を行わせる。 ・各学年で、指導案検討を行うことで、授業力を向上させるよう取り組む。 ・10分休みを「か・つ・おタイム」とし、休み時間の過ごし方を確認する。 ・学期に1回アンケートを実施し、達成状況を確認する。							※かしこい子プロジェクト ・研究主任
	○児童の基本的な学習習慣の育成	○自分の席で始業のチャイムを聞くことができた」と回答した児童が80%以上一学校評価児童アンケート								※かしこい子プロジェクト
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分は誰かのために行動することができる」と答えた児童80%以上。	・「心を考える日」に人権教室を3回、人権集会1回、ほかほかの木週間3回を実施することにより、人権意識と自己有用感の向上を図る。 ・道徳教育やいのちの学習を通して、自他の生命を尊重する心を育てる。							※やさしい子プロジェクト ・人権・同和教育 ・道徳教育
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートの保護者のいじめの対応についての評価を90%以上にするとともに、児童のいじめの対応についての評価を85%以上にする。	・いじめアンケートやすっきりこころアンケート等を通して児童の状況を速やかに把握し、問題のある事象に対して聞き取り等を丁寧に行うことで、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。							※たかましい子プロジェクト ・生徒指導
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・「生徒指導の3機能」を意識した、自分で考え、選択し、決定したことを伝え合い認め合う授業・活動を実施する。 ・学校生活において教職員からの声かけや、友達の良さを認め合う場を設定することで、自分や友達の多面的・肯定的に捉える機会を作る。 ・地域の方との交流、体験活動、学校行事等でキャリアパスポートを活用し、活動に対する目標や振り返りを計画的に設定する。							※かしこい子プロジェクト ・児童会活動 ・委員会活動
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上	○共遊(学級・学年間交流)の時間を計画的に実施し、外で遊ぶ楽しさを実感させる。 ○月1回全校的に自力登下校や休み時間に遊ぶことを促すような声をかけ、体を動かす習慣化を意識させる。							※たかましい子プロジェクト ・体育主任
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○避難訓練や安全教室等を計画的に実施し、登校している全児童と全職員が避難訓練や安全教室等に参加する。 ○食物アレルギーを有する児童の誤食等の事故や、食に関する事故発生を0(ゼロ)にする。 ●児童生徒が事件や事故に巻き込まれる件数を0(ゼロ)にする。 ○登下校中の防犯ブザーの携帯率を70%以上にする。 ○下校後と長期休業中の、防犯ブザーの携帯率を50%以上にし、自転車運転時のヘルメット着用90%以上を目指す。	○交通安全教室を実施し、正しい道路通行と自転車運転について体験させたり、講話視聴をさせたりする。 ○水難時引き渡し訓練と不審者避難訓練と火災避難訓練をそれぞれ年間1回以上実施する。 ○AEDやエビペン等の職員研修を行い、危機管理に対する共通理解を図る。 ○登下校中及び下校後の防犯ブザーの携帯と自転車運転時のヘルメット着用に取り組む。学期に2回ほどアンケートを採り、結果を検証し改善に取り組む。							※たかましい子プロジェクト ・安全担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週金曜日を退勤促進日に設定し、17時30分までの退勤とする。併せて月曜日から木曜日までを18時30分までの退勤とする。 ・年間において月平均時間外在校時間45時間以内の職員を80%以上とする。 ・全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。							・教頭 ※校内安全衛生委員会(多忙化多作委員会)
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する職員の知識・技能の向上	○「特別支援教育」に関する理解を深めることができた」と答えた職員が80%以上。 ○校内研修や巡回相談など関係機関からのアドバイス指導に生かされた」と答えた職員が80%以上。	・特別支援教育に関して、講師を招聘して研修会を開き、専門性を高める。 ・特別支援学級と通常学級との連絡を密にし、合理的配慮について共有する。 ・校内拡大支援委員会等の機会に、関係機関からの情報を共有し、よりよい指導や支援の充実を図る。							やさしい子プロジェクト ・特別支援教育コーディネーター

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
○教育相談体制の構築及び充実	○悩みを抱える児童の困り感を共有し、対応できる体制の構築	○「心配なことや困っていることを誰かに相談した」と回答した児童が70%以上 ○「保護者や児童にとって、困っていることを相談しやすい環境をつくれた」と回答した教員が80%	○覚知した児童の状況について管理職や教育相談担当、担任等と速やかに情報共有を行い対応する体制の整備、構築。 ・(年3回)すっきりこころアンケートの実施。 ・「見守りたい子」の共有。 ・SC,SSW,SSF、支援センター等との連携。 ・困り感をもつ児童が安心して過ごすことができる環境を整える。							※やさしい子プロジェクト ・教育相談

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--